

保護者会資料

1 教職員の紹介

2 学校経営方針について

① 教育目標(なかよく元気で力いっぱい頑張る子)

- ◎ なかよくする子 …… 思いやりの心をもって互いに助け合う子
- よく考える子 …… 自らすすんで学習し、よく考える子
- 元気で明るい子 …… 心と体を鍛え、健康で明朗な子
- 力いっぱい頑張る子…… 目標をもって全力でやりぬく子

3 目指す特色ある学校像

確かな学力、健全で豊かな心と体の育成

○主体的に学び合う学校(個に応じた指導を推進し、自分で決めて取り組む子の育成)

○心と体を育てる学校(関わりを大切に、豊かな心と健全な体を育み、自己有用感をもつ子の育成)

○地域とともに歩む学校(地域に親しみを感じ、挨拶のできる子の育成)

・子供が自分の良さに気づき、自己肯定感がもてるように。

(やればできると感じる事。1つでも多く好きなことや夢中になれることを見付ける)

・失敗から立ち上がることができるように。

(何かに挑戦し、努力していくことの心地よさを感じる事。努力は必ず成長を保証する)

・地域のために、一肌脱ぐ人材に。

(学校がキーステーションとなつての地域総がかりの教育)

4 保護者の皆様とともに

・最も大事なことは、学校・家庭・地域の大人たちが、互いを尊重しながら子供の成長を支えることであると考えています。

【子育てでやってはいけない3つのこと】

① 挨拶をしない

子供は間違いなく陰気で礼儀知らずになってしまいます。

② 手伝いや掃除をさせない

子供は学校でもそれでよいと思ってしまう。そのうち友達からの信用を失い最後には独りぼちになってしまう心配があります。

③ 子供の前で悪口を言う

保護者が悪く言っている人は、たとえその人が子供のためになることを話したとしても、その子供には響かない。

5 当たり前のことの見直し

①大人が経験してきたことや、例年通りに進めてきたことの見直し。何を守り、何を改善するのか。

②学校がこれまで当たり前をやってきたことの見直しとして、子供のためになっているのかを判断基準とする。社会の大きな変化に伴い学校も変わっていく。

例) 学校行事、通知表、授業改善(タブレット端末の活用)、コロナ前にやっていたこと、など

※これまで私たち大人が経験してきたことを、場合によっては大胆に変更する。

(1) タブレット端末の持ち帰りについて

※別紙参照

(2) 通知表の所見について

毎学期の通知表の所見をどうするのかを検討しています。まずは以下の理由から **1学期の所見をなくします**。※評定を付けた通知表はお渡します。

- ① 所見はこれまで慣例的に、短い文章で学期ごとのお子様の様子を保護者に伝える手段としていました。しかし、子供の育ちを確実に伝えることが本当にできていたのでしょうか。そこで、今年度から、子供の育ち(良さや個性)を保護者の皆様としっかりと共有し、子供の成長へと繋げることが大切であると考え1学期の通知表の所見をなくすこととしました。そして、個人面談を1学期末に設定することで、より確かな子供の育ちの道標を共有したいと考えています。
- ② 子供と向き合う時間を充実させていきたいと考えています。様々な場面において適切に、子供の育ち(良さや個性)や課題について伝えたり、子供自身の気持ちや考えを聞くことに力を注いだりしていきます。

これまで学校は、担任を中心に子供たちの様々な成長の記録から、子供の育ちを家庭に伝えるツールとして通知表の所見に短い文章でまとめることを行ってきました。

しかし、学校と家庭が本当に共有しなければならないことが伝わっていたのか。また、一方通行になっていたり、次のステップのための課題までお伝えすることができていなかったりと不十分と感ずることが現状のままではあると考えました。もちろん文章として通知表に残すことのメリットにつきましても十分に考えました。そこで、2学期以降の通知表の所見等につきましては、改めて子供の育ちのためには、どのような進め方が良いのかを検討してお知らせいたします(6月下旬を予定)。

何卒、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。